

### シリーズ最広角・最軽量の「CINE-SERVO レンズ」を発売 ライブ撮影やスタジオでの映像制作などにおいて印象的な映像表現をサポート

キヤノンは、シネマレンズ「CINE-SERVO レンズ<sup>※1</sup>」の新製品として、“CN5×11 IAS T/R1”（RF マウント）と“CN5×11 IAS T/P1”（PL マウント）を2025年11月下旬に発売します。



CN5×11 IAS T/R1  
（ドライブユニット装着時）



CN5×11 IAS T/P1  
（ドライブユニット非装着時）

新製品は、RF マウント採用によりデジタルシネマカメラとの通信機能に対応した“CN5×11 IAS T/R1”と、映像業界で広く使用されている PL マウントを採用した“CN5×11 IAS T/P1”です。ドライブユニット「e-Xs V」を搭載し、「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最広角となる焦点距離 11mm の超広角撮影と、シリーズ最軽量<sup>※2</sup>を実現しています。被写体に接近した撮影でも広い画角で奥行き感のある描写を可能にするほか、機動力が求められる現場においても、被写界深度の浅い印象的な映像表現をサポートし、ライブ撮影から映画制作まで、多様化する映像制作のニーズに対応します。

#### ■ 焦点距離 11mm の超広角で「CINE-SERVO レンズ」シリーズの広角域を拡大

「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最広角となる焦点距離 11mm を生かし、従来は放送用広角レンズで対応してきた、スポーツやコンサートの中継など、カメラ位置が限られた撮影現場においても、広角で被写界深度の浅いシネマティックな映像表現を可能にします。また、スーパー35mm センサーへの対応に加え、内蔵 1.5 倍エクステンダー使用時には 35mm フルサイズセンサーにも対応し、大判センサー搭載のカメラとの使用をサポートします。「CINE-SERVO レンズ」シリーズ全体で 11mm から 1500mm の焦点距離をカバーし、幅広い用途のニーズに応えます。

#### ■ 8K カメラ対応の高い光学性能と豊かな映像表現

キヤノンの光学技術を結集し、ズーム全域で、画面中心から周辺まで 8K カメラ対応の光学性能を有しています。また、肌の色をより美しく再現する暖色系のカラーバランスや奇数枚絞りによる柔らかなボケ味により、印象的な映像表現を実現します。さらに、“CN5×11 IAS T/R1”は、RF マウント通信によりキヤノンバーチャルプロダクションシステムにも対応し、撮影現場だけでなくポストプロダクションにおける作業負荷軽減にも貢献します。

#### ■ 「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最軽量の優れた機動性と運用性

「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最軽量と重心バランスに配慮した設計により、クレーンやワイヤーカムなどのシステムに組み込まれた撮影でも、高い機動性を発揮します。また、エルゴノミック・デザインとの組み合わせで、肩に担いでの長時間撮影をサポートします。さらに、運用性と機能性に優れた取り外し可能なドライブユニット「e-Xs V」を採用しています。ドライブユニットを装着してサーボ操作を行う放送スタイルと、ドライブユニットを外しフルマニュアルでの操作を主としたシネマスタイル双方で快適な運用が可能です。

※1 大判センサーを搭載したカメラに対応するドライブユニットを標準装備したレンズの総称。

※2 “CN5×11 IAS T/R1”は約 3.01kg、“CN5×11 IAS T/P1”は約 2.92kg。（ドライブユニットを含む。）

製品名	希望小売価格	発売日
CN5×11 IAS T/R1	オープン価格	2025 年 11 月下旬
CN5×11 IAS T/P1		

- 
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-07-0032
  - CINEMA EOS SYSTEM ホームページ : [canon.jp/cinema-eos/](http://canon.jp/cinema-eos/)

## 〈主な特長〉

### 1) 焦点距離 11mm の超広角で「CINE-SERVO レンズ」シリーズの広角域を拡大

- 「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最広角となる焦点距離 11mm を実現。被写体との距離が取れない現場やカメラ位置が限られた環境、俯瞰した構図が求められるシーンにおいて、広角で奥行き感のある映像撮影が可能。「CINE-SERVO レンズ」シリーズ全体で 11mm から 1500mm の広い焦点距離をカバー。
- 放送用レンズ「CJ15e×4.3B」（2020 年 1 月発売）の広角端と同等以上の画角。従来は放送用広角レンズで対応してきた撮影現場においても、近年ニーズが高まる被写界深度の浅いシネマティックな映像表現が可能。スポーツなどのライブ撮影から、ドキュメンタリーやドラマ、映画などの映像制作まで、幅広い撮影現場に対応。
- スーパー35mm センサーへの対応に加え、内蔵 1.5 倍エクステンダー使用時には 35mm フルサイズセンサーにも対応。

### 2) 8K カメラ対応の高い光学性能と豊かな映像表現

- キヤノンの光学技術を結集し、ズーム全域で 8K カメラ対応の光学性能を保持。諸収差を極限まで抑制し、画面中心から周辺まで高い光学性能を達成。
- フォーカシング時にピント位置の移動に伴って画角が変化する「フォーカスブリージング」を抑制する光学設計により、安定したフレーミングでの撮影が可能。
- 11 枚の奇数かつ多枚数絞り羽根により、円形に近い柔らかかで自然なボケ味を表現。
- “CN5×11 IAS T/R1”は RF マウント通信システムにより CINEMA EOS SYSTEM のシネマカメラとの通信機能に対応。対象カメラ※1 で、画像補正・デュアルピクセルフォーカスガイドなどの機能を使用可能。また、キヤノンバーチャルプロダクションシステムにも対応※2。レンズとカメラの撮影情報をリアルタイムに通信・演算することで、出力映像に応じたメタデータをイーサネットケーブル 1 本で取り出し、記録することが可能。違和感のない自然な CG 合成映像制作に貢献。
- CINEMA EOS SYSTEM のシネマレンズは、全シリーズを通じて肌の色をより美しく再現する暖色系のカラーバランスに統一。被写体の質感描写にも好適。レンズ交換を行っても安定的な色再現が可能のため、撮影カットごとの色調整などポストプロダクションにおける手間を削減。

※1 対象カメラは、「EOS C400」（2024 年 9 月発売）、「EOS C80」（2024 年 11 月発売）、「EOS C70」（2020 年 11 月発売）、「EOS C50」（動画モード）（2025 年 11 月下旬発売予定）、「EOS R5 C」（動画モード）（2022 年 3 月発売）。

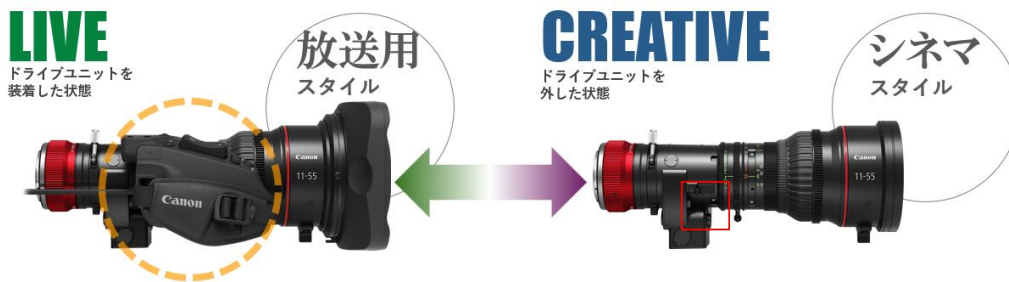
※2 「EOS C400」、「EOS C80」との組み合わせでキヤノンバーチャルプロダクションシステムの機能を使用する場合は、2025 年 12 月配信予定のファームウェアアップデートが必要。



RF マウントシステムの高速度通信によるリアルタイムメタデータ出力が可能

### 3) 「CINE-SERVO レンズ」シリーズ最軽量の優れた機動性と運用性

- 超広角域の焦点距離やエクステンダー内蔵と、シリーズ最軽量を実現。“CN5×11 IAS T/P1”は 2kg 台を達成。
- 重心バランスに配慮した設計により、ステディカムやワイヤークラム、クレーンなどシステムに組み込まれた撮影の場合でも高い機動性を発揮。エルゴノミック・デザインとの組み合わせで、肩に担いでの長時間撮影をサポート。
- 運用性と機能性に優れたドライブユニットを搭載。フォーカスブリージング補正や一瞬を逃さないカメラワークをサポートする高速ズーム・フォーカススピードにより、高品位な映像の撮影が可能。ENG レンズと同等の操作性・運用性を保持。
- ドライブユニット未装着時には、シネマ業界標準とされている主要なアクセサリの装着によりマニュアル操作での映像制作が可能。シネマレンズとしてユーザーの求める使いやすさを考慮。



放送用とシネマ双方に適したデザイン

#### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/biz/product/camera/pro-imaging/cinema-eos/lineup/ces-lens/cn5-11ias>

#### 〈ご参考〉

##### 1) 「IBC2025」への出展

2025年9月12日（金）から15日（月）まで、オランダ・アムステルダムで開催される国際放送機器展「IBC2025」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

##### 2) シネマレンズの市場動向

浅い被写界深度で、より豊かな映像描写が魅力の大判センサー搭載カメラが映像制作において普及しています。映画だけでなく、スポーツイベント、コンサートなどのライブ撮影現場でも広がりつつあり、これらの撮影に対応する機能を兼ね備えたレンズへのニーズがこれまで以上に高まっています。また、撮影時のカメラ・レンズ情報をポストプロダクションなどに活用するワークフローも広がっており、効率的な映像制作をサポートするレンズへのニーズが高まっています。（キヤノン調べ）

### 3) シネマレンズのラインアップ

キヤノンは、2011年11月にCINEMA EOS SYSTEMを発表して以来、「CINE-SERVO レンズ」や「FLEX ZOOM レンズ」などのシリーズを加えながらラインアップを拡充し、幅広いユーザーから高い評価を獲得してきました。今回発表した新製品2機種を加え、シネマレンズのラインアップは合計43機種となります。用途や撮影シーンに応じて、ユーザーにとって快適な運用を支えるとともに、高画質で多彩な映像表現を求める映像制作のニーズに応えることで、映像表現領域の拡大に貢献します。

	EF マウント	PL マウント	RF マウント
FLEX ZOOM レンズ	CN-E20-50mm T2.4 L F	CN-E20-50mm T2.4 L FP	
	CN-E45-135mm T2.4 L F	CN-E45-135mm T2.4 L FP	
	CN-E14-35mm T1.7 L S	CN-E14-35mm T1.7 L SP	
	CN-E31.5-95mm T1.7 L S	CN-E31.5-95mm T1.7 L SP	
PRIME レンズ	CN-E14mm T3.1 L F	CN-E14mm T3.1 FP X <sup>※</sup>	CN-R14mm T3.1 L F
	CN-E20mm T1.5 L F	CN-E20mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R20mm T1.5 L F
	CN-E24mm T1.5 L F	CN-E24mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R24mm T1.5 L F
	CN-E35mm T1.5 L F	CN-E35mm T1.5 FP X <sup>※</sup>	CN-R35mm T1.5 L F
	CN-E50mm T1.3 L F	CN-E50mm T1.3 FP X <sup>※</sup>	CN-R50mm T1.3 L F
	CN-E85mm T1.3 L F	CN-E85mm T1.3 FP X <sup>※</sup>	CN-R85mm T1.3 L F
	CN-E135mm T2.2 L F	CN-E135mm T2.2 FP X <sup>※</sup>	CN-R135mm T2.2 L F
CINE-SERVO レンズ	CN10×25 IAS S/E1	CN10×25 IAS S/P1	
	CN20×50 IAS H/E1	CN20×50 IAS H/P1	
	CN8×15 IAS S/E1	CN8×15 IAS S/P1	
	CN7×17 KAS S/E1	CN7×17 KAS S/P1	
		CN7×17 KAS T/P1	CN7×17 KAS T/R1
		CN5×11 IAS T/P1	CN5×11 IAS T/R1
COMPACT-SERVO レンズ	CN-E18-80mm T4.4 L IS KAS S		
	CN-E70-200mm T4.4 L IS KAS S		

※ 単焦点レンズシリーズ「Sumire Prime」。